

日本社会福祉学会 東北部会

ニュースレター 第24号

2020年2月12日発行

日本社会福祉学会東北部会 発行責任者 東北部会担当理事 都築光一

事務局：〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1 東北福祉大学内

◆担当理事挨拶◆

日本社会福祉学会東北部会
東北福祉大学 都築光一

春とはいえ、まだまだ寒い日々が続いておりますが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

少子高齢化と人口減少が進行する東北におきまして、昨年は広範囲にわたる台風被害が発生し、地域社会において大きな課題を抱えるようになりました。

東北におきましては、地域社会の継続性の保持が大きな課題となっており、台風による自然災害は、地域社会の継続可能性を問うものとなっております。言わば社会の持つ脆弱性に対する回復力（resilience）が問われてきていると言っているのではないかと思います。

これまで社会福祉の取り組みのうち、歴史の中で常に厳しい状況において実践されたときは、社会の矛盾が渦巻いており、様々な問題に直面している状況に置いて、静かにしかし確実な形で実践されてきました。そうした先人の取り組みが絶えることなく実績を積み重ねて、今日に至っております。特に東北においては、厳しい自然環境や、様々な政策の対象地域から外れ過疎化が進行し消耗が激しい中であっても、決して希望を失うことなく地域社会は生き残っていきました。これも resilience と言えるでしょう。

今、東北はそうした時期に差し掛かってきているようにも思われます。それだけに、機会をとらえて発信していく必要があると思われます。そのような背景のもと、今年は研究大会を、青森県立保健大学を会場に行う予定です。詳細は後日大会案内を送付いたします。大会では多くの会員の皆様の参加と、積極的な研究発表されることを望むところです。

◆日本社会福祉学会東北部会第 19 回研究大会（岩手大会）報告◆

第 19 回 研究大会 岩手大会事務局
菅野 道生（岩手県立大学）

2019 年 7 月 27 日（土）に、岩手県立大学において、日本社会福祉学会東北部会第 19 回研究大会（岩手大会）が開催されました。内容としては、午前中に自由研究発表、午後には大会基調講演と大会シンポジウムという構成でした。

東北においては、高齢化と人口減少が進展するなかで、高齢者等が住み慣れた地域でいかに生活を継続していくか、その条件を明らかにすること、及びその条件を整備していくことが共通かつ喫緊の課題となっています。特に「見守り」や「移動」の問題は、どの地域でも課題として挙げられています。さらに孤立しやすい高齢者の見守りについても、行政、社協、民生委員、町会自治会等において、重要なテーマとなっている現状があります。これらの課題解決に向けた取組は、単に支援プログラムやサービス、ツールの開発にとどまらず、課題解決プロセスへの住民の参画と、それを通じた地域コミュニティづくりにつながるものであることが望ましいといえます。また、そのためには医療、保健、福祉、まちづくり等の分野横断的な連携に加え、行政、企業、大学といった多様な主体による協働が求められています。

上記をふまえ、大会全体のテーマは「地域を基盤とした高齢者の生活支援とコミュニティづくり」とし、基調講演として小川晃子教授に「見守りと生活支援－高齢者の孤立防止とコミュニティ形成－」をテーマにお話しいただきました。また、シンポジウムでは「見守りと生活支援における連携」をテーマとして、紺野敏昭氏（このの脳神経内科・脳神経外科クリニック院長）、松本まゆみ氏（ヤマト・スタッフ・サプライ（株））右京昌久氏（岩手県社会福祉協議会）にご登壇いただき、医療（医師）、流通（企業）、地域福祉（社協）の各分野・立場から、高齢者の地域生活支援とそこに向けた連携をめぐる現状と課題についてディスカッションを行い、今後の岩手・東北における地域を基盤とした高齢者の地域生活支援のあり方について考えました。なお、シンポジウムのコーディネーターは川上富雄氏（駒澤大学）につとめていただきました。

基調講演とシンポジウムを通じて、東北地方独自の地域特性に条件づけられながらも、高齢者が「最後まで自分らしく生ききる」(小川教授の基調講演より)ことができる地域を、いかに協働の力でつくりあげていくかについて、活発な議論が交わされました。

午後の自由研究発表では、口頭発表 18 演題、の発表がありました。口頭発表は、「方法・技術」、「高齢者福祉」、「地域福祉」、「障害者福祉」の 4 分科会に分かれて行われました。グループホームにおける利用者の「食事拒否」への対応、高齢者が要介護認定に至る要因分析、多世代交流カフェの取り組み、救護施設の精神障害者の地域移行等をはじめ、幅広いテーマの発表がなされ、活発な意見交換が行われました。

2019年度 社会福祉学会東北部会 第19回研究大会岩手大会

自由研究発表

分科会名 会場	分科会 テーマ	発表順	氏名	主な所属	報告タイトル
第一分科会	方法・技術	1	笠松 剛士	社会福祉法人 白石陽光園	社会福祉の対象者の「食事拒否」に関する一考察 —共生型グループホームでの8年間の実践を通して—
		2	塚田 実央	東北福祉大学大学院	子どもの最善の利益を構成する要素としての協働の力に関する研究 —自己肯定感の形成について—
		3	板垣 直子	東北文化学園専門学校	質の高い社会福祉士養成を目指す教育実践報告 —「総合的かつ包括的相談援助」の視点を養う授業の取り組みから—
		4	高松 誠	北日本医療福祉専門学校	家庭・教育・福祉の連携における「少年の福祉を害する犯罪」への対策 —英国の子どもの性的搾取予防実践に着目して—
		5	村田 隆史	青森県立保健大学	行政福祉専門職によるケースワークとキャリアに関する予備的考察 —福祉系国家資格保有者の分析を中心に—
第二分科会	高齢者福祉	1	工藤 英明	青森県立保健大学	自立高齢者が脳血管疾患を原因とする要介護認定または死亡に至る背景要因の検討
		2	山田 克宏	秋田看護福祉大学	介護保険制度下における看取りケアの概観 —福祉哲学からのアプローチ—
		3	小川 和也	東北福祉大学	山形県M地区におけるボックリ信仰の盛衰 —社会福祉における死生観に関する一考察—
		4	青山 美智子	仙台青葉学院短期大学	超高齢社会における地域コミュニティに関する研究 —持続可能な地域コミュニティ構築の一考察—
第三分科会	地域福祉	1	石田 賢哉	青森県立保健大学	相互理解を促進する地域づくりを目指した多世代交流カフェの試み —アクションリサーチ第一段階の報告—
		2	高橋 和幸	弘前学院大学	地域資源を有効活用し低予算で実現する除雪ボランティアの事例研究 —6つの取組事例の比較を通じた事業費低減のための運営形態、活動内容、資金確保、地域協力を得るための様々な工夫等に注目して—
		3	山屋 春恵	常葉大学	地域における社会的養育のあり方に関する研究 —第三の領域論に着目して—
		4	渡邊 圭	東北福祉大学感性福祉研究所	地域住民を主体とした地域ボランティアセンターのマネジメントに関する研究 —I県O市K地区の事例をもとに—
第四分科会	障害者福祉	1	熊谷 和史	玉葉荘	救護施設の精神障害者における地域移行の課題と展望
		2	駒ヶ嶺 裕子	弘前大学大学院	精神障害の当事者と支援者が考える自立と達成要因の相違の一考察
		3	佐々木 千枝	岩手県立大学大学院	行動障害のある自閉症者に対する日中活動支援を振り返って —Aさんの担当職員に対する面接調査から—
		4	千葉 伸彦	東北福祉大学	重症心身障害児をもつ母親らの日常生活におけるサポートネットワークの構造
		5	小川 博敬	指定相談支援事業所サポートにじ	障害者虐待に対する社会福祉士の認識

◆ お知らせ ◆

(1) 第20回東北部会研究大会

2020年度の東北部会の研究大会は、青森県において開催することとなっておりますが、この度会場が青森県立保健大学を会場に開催することになりました。詳細は、2020年度のニュースレターと大会案内にてお知らせいたします。

開催期日：2020年7月18日

開催会場：青森県立保健大学

※なお東北部会では、研究大会で発表いただいた方に対して、東北の社会福祉研究への投稿が認められることになっておりますので、研究誌への投稿をお考えの方は、是非、研究大会でご発表いただければと思います。

(2) 2020年度日本社会福祉学会第68回秋季大会

前回のニュースレターにおいてお知らせいたしましたように、2020年度日本社会福祉学会第68回秋季大会は、東北福祉大学において実施することとなっております。

開催期日：2020年9月12日（土）～13日（日）

開催会場：東北福祉大学国見キャンパス

日本社会福祉学会東北地域部会委員会 役員名簿（敬称略）

理事（東北地方部会委員長） 都築光一（東北福祉大学）

幹事 青森県 石田賢哉（青森県立保健大学）

岩手県 菅野道生（岩手県立大学）

秋田県 =====

宮城県 高橋誠一（東北福祉大学）

山形県 柴田邦昭（柴田邦昭社会福祉士事務所）

福島県 日下輝美（福島学院大学）

監事 熊坂聡（宮城学院女子大学）

佐々木達夫（東日本国際大学）

事務局 田中治和（東北福祉大学）

鎌田真理子（いわき明星大学）

高野亜紀子（東北福祉大学）

阿部利江（東北福祉大学）